

平成 24 年度（2012 年度）第 1 回運営委員会記録

豊中市教育センター

日 時 平成 24 年（2012 年）7 月 10 日（火）

会 場 豊中市教育センター 研修室

出席者 久岡委員、山崎委員、高橋委員、倉澤委員、高祖委員、藤原委員、宮本委員、安川委員、井坂委員、大野委員、越桐委員、渡邊委員、竹岡委員、秦委員

欠席者 三木委員、檜原委員

事務局 鈴木所長、石井チーム長、野村チーム長、成瀬グループ長、田中グループ長（記録：寺田、河上）

傍聴者 1 名

○委員紹介

○所長挨拶

1. 開会の挨拶（委員長）

2. 案件

（1）本年度の教育センターの組織・運営について（事務局）

- ・組織の概要
- ・利用者、利用件数
- ・人事権の移譲に伴う教職員の研修事務移管
- ・課題について
 - ① 人材育成
 - ② 支援が必要な子どもへの適切な支援
 - ③ 教育相談機能の充実
 - ④ 教育情報の発信

（2）本年度の事業計画について（事務局）

○教育計画チーム

研究・研修グループ

- ・学校教育の研究・調査に関すること
- ・教育資料の収集・保管及び利用に関すること
- ・教科書センターに関すること
- ・教育センター運営委員会に関すること
- ・教職員の研修に関すること
- ・教育情報の発信に関すること

情報・科学グループ

- ・情報教育に関すること
- ・科学教育に関すること
- ・教育情報の発信に関すること

- ・市民対象の教育に関する講座に関すること
- ・センター施設の維持管理に関すること

○教育相談チーム

- ・幼児、児童、生徒に係わる教育相談及び指導に関すること
- ・学校教育に係わる相談及び指導に関すること

○支援教育チーム

- ・支援学級の設置及び指導に関すること
- ・障害児教育に関すること

【質疑・意見】

- ・iPadを各学校に導入するとのことであるが、教室の無線LANの環境について教えてほしい。
→校内LAN環境整備を進めており、どの教室でも無線LANを使用することができる。
- ・相談内容の内訳について、発達に関する相談が増えていると思うが、どのように対応しているか。
→23年度(2011年度)の相談内容の内訳としては、心理に関する内容が約5300件、発達に関する内容が約4800件であり、ここ数年ほぼ半数ずつである。発達に関する相談については、発達に関する検査や判定が主目的ではなく、あくまで子どもの発達状況に応じた相談を中心に行っている。そのために相談員も自ら研さんに努めている。
- ・サポート会議について、学校からの依頼によって開催しているとのことであるが、保護者からの依頼によって開催することはないのか。
→サポート会議は、学校問題解決支援事業の一環として、学校における子ども支援を目的としており、市民に開いているものではない。保護者からの相談窓口としては、教育相談総合窓口を利用いただいている。
- ・教育相談チームと支援教育チームの連携について教えてほしい。
→両チームにまたがる内容の相談については、教育相談チームで心理面での相談を行うとともに、支援教育チームと連携し、相談者に対し適切な助言等を行っている。
- ・支援学級に関する調査について教えてほしい。
→文部科学省から通知される調査等を実施している。内容としては、校内で設置している委員会についてアンケート形式で尋ねるもの等がある。
- ・教育相談チームで行っているのは心理面での相談とのことであるが、相談者が見通しを持てるような具体的な助言をいただきたい。
→大切な視点であると考えている。相談者の心をほぐしながら、ていねいに話し合いを進めることを通して、相談者が見通しを持てるよう心掛けたい。
- ・この運営委員会の資料や情報について、PTA等で広報することは可能か。

→情報発信は大切であると考えている。会議録を教育センターホームページ教育センター概要に掲載しているので、これを活用いただきたい。

- ・豊中のインクルーシブ教育は、先進的で特色のある取組みであると考えている。市実施研修にインクルーシブ教育を取り上げることで、先生方が見通しを持てるようにしていただきたい。
- ・初任者研修について、豊中市で育てたい教師像や研修計画を情報発信していくことが、教職を目指す学生に豊中市を選択してもらおう材料となると考えている。

3. 閉会の挨拶（副委員長）

- ・教育センターが、保護者にとっても、身近に感じられるようになることが大切である。
- ・子ども、保護者、学校の直面する課題を受け止め、解決に向けてどのような道筋をつけていくのかを考える事業展開が大切である。